

高島及び関崎周辺地域の自然景観

多彩な海食地形と特異な地質構造の高島

高島を含む佐賀関半島以南の日豊リアス海岸は、海食崖や海食洞をはじめとする海食地形が特徴です。特に高島の地形は石灰岩地域が主で、山地部では石灰岩崖、ドリーネや石灰岩台地形がみられます。海岸部では波食台地形、離れ岩、海食洞、岩塊の堆積する浜や砂浜が見られます。特異なものではヘイサキの海食崖と海食洞に、石筍や石柱などを形成している鍾乳石が見られることです。高島は石灰質片岩や塩基性片岩が主に分布しますが、関崎周辺では泥質片岩や蛇紋岩が主で、地質構造は異なります。



鍾乳石のみられる海食洞(高島ヘイサキ)

海水がもたらす特徴的な気候

高島及び関崎周辺地域の気候は、暖地性と言われますがこれは豊後水道を北上する暖かい黒潮分流の影響です。高島周辺の海水温度は年平均約19℃で、高島の気温より2℃ほど高いのです。暖かい海水が高島の気温を押し上げる一方、気温の変動も抑える働きもしており、夏は涼しく冬は暖かい気候をもたらしてくれています。高島は夏季の最高気温が30℃を越えることはほとんどなく、夏季の日中も内陸部より4～5℃低いのです。冬季も日最低気温の月平均値は7.5℃ほどで、大分市の約1℃と比べるとかなり温暖です。



速吸瀬戸の潮流と高島

分布限界を示す暖地植物と生育環境

高島及び関崎周辺を分布限界とする暖地植物にはノシラン、ビロウ、ハカマカズラなどがあげられます。その多くは関崎、高島を境としてその西側では分布しないか、極度に生育地が限定されているようです。これは地形、地質、気候、海流など生育環境に大きな違いがみられることによると考えられます。暖地植物の分布は暖流黒潮の影響によることが多いが、一方、対馬海流による西からの分布種や、東亜大陸の北方寒冷地からの分布種なども見られることがこの地域の特徴と言えます。



暖地植物のノシラン(左)とビロウ(右)



全島照葉樹林に覆われた植生景観

高島は豊後水道の北の端に浮かぶ島で、南から北上する暖流がぶつかり、植物分布からも北限とされる種を含む豊富な照葉樹林が島のほとんどを覆っています。海岸近くの斜面や風当たりの強い岩場には、低木のマサキ群落やシャリンバイ群落、海岸斜面の土壌の堆積したところにはハマビワ林が発達しています。山腹のやや凹地形の土壌の堆積したところにはタブノキ林、島内中央部の人為影響のないところにはスダジイ林が立っています。ウバメガシ林は佐賀関半島の南側の急崖地に限られており、高島とは異なる植生景観が見られます。



優れた植生景観のスダジイ林(高島)

季節をにぎわうウミネコの群れと目をひく樹幹の齧痕

高島は大分県内では唯一のウミネコの繁殖地です。高島本島の東端部や白滝島、フナマ島、アシカ島の3島では約5000羽のウミネコが、3月頃から巣作りを始め産卵します。5月～6月の子育てを終わり、7月～8月にかけて



飛び交うウミネコの群れ(左)とタイワンリスの齧痕(右)(高島)

て幼鳥が巣立ちます。断崖から海岸近くまで巣を作り、この季節は特異な鳴声でとてもにぎやかです。また林内のイスビワ、ヤブツバキ、タブノキなどの幹には、移入種のタイワンリスにより深く刻まれた螺旋状の齧痕をみかけることがあります。水鳥のウミネコと同様に高島ならではの特異な動物景観と言えましょう。

多彩な海食地形・優れた自然林がつくる島の景観

高島の自然景観の特徴は、多彩な海食地形が海岸のいたるところに見られることと、島全体をうっそうと覆う自然林が発達していることです。海岸部では石灰質片岩の海食崖、離れ岩、波食台、海食洞などの海食地形や岩塊の浜、砂礫浜などの堆積地形がみられます。特に本島東端に接近している離れ島の白滝島、フナマ島、アシカ島の海上からの景観はすばらしく、豊後水道が誇る絶景と言えます。また、陸域に発達するハマビワ林、タブノキ林、スダジイ林で代表される照葉樹林は豊後水道北端の真ん中に浮かぶ離島の植生景観をひき立てています。



高島本島東端の離島群(左から白滝島、フナマ島、アシカ島)